

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100769		
法人名	大東株式会社		
事業所名	グループホーム我が家		
所在地	青森県つがる市木造中館田浦44-1		
自己評価作成日	平成28年9月15日	評価結果市町村受理日	平成29年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○さくらんぼ狩り・納涼祭・いも煮会等、屋外での行事の他、地域のお祭りや利用者の要望に応じて外出する等、活動的な生活を提供し、地域とのつながりを大事にしています。○系列の事業所にある温泉へ出かけ、入浴を楽しんでいただいています。大浴場には檜の個室もあり、身体の不自由な方でも安心して入浴ができます。○利用者の重度化に伴い、看取り介護の取り組みも行っており、医療機関・ご家族との連携に力を入れています。○職員の育成にも力を入れており、県内外の研修に参加して、全職員の知識の習得と向上に努め、自立支援の実践に取り組んでいます。○排泄・入浴・浮腫・食事の各委員会を中心に、利用者の現状について検討し、日々のケアの実践に向けて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の高齢化・介護度の変化による心身機能の低下が現れていることを受け、機能訓練の内容を充実させ、楽しみながら身体を動かすことを目標に掲げており、一日の始まりに神棚を設えたユニットへ毎朝お参りする等、移動の取り組みも行っている。
 地域における風習への関わりも大事にしており、四季毎の祭り事の折には「御神酒」を奉納し、地域住民との絆が途切れないように努めている。
 また、日々の暮らしの食事面においても、伝統的な郷土料理や行事食を盛り込み、共通の話題により語り合い、穏やかで楽しい暮らしの営みを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生きることへの支援」を理念に掲げ、人と人とのつながり、支え合いを大切に、一人の住人として地域との関わりを持っている。	ホーム独自の理念を作成しており、職員はもとより、家族等、来訪する方々の目にも留まるよう、ホーム内に掲示している。職員は理念の意味を考え、ホームに関わる方々とのつながりを大事にしながら、日々のサービス提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店へ買い物に行ったり、美容院を利用している他、地域の祭りやお宮の祈禱等の行事には積極的に参加し、地域とのつながりを大切にしている。	ホーム便り「共に生きるための懸け橋」を作成し、高齢者に関する知識や嗜好品等の作り方を記載して、地域住民の暮らしに役立つ情報発信に努めている。また、地域のお宮の行事の際は御神酒をお供えする等して参加し、地域の一員として交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域住民も参加しており、認知症の理解を図ると共に、相談を受けた際は具体的な支援方法について助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス評価の取り組みや結果の報告の他、行事や利用者の状況・課題等について報告し、意見交換を行っている。	年間の開催予定日を決め、定期的に運営推進会議を開催しており、多くのメンバーの参加を得ている。会議ではサービス評価への取り組みや目標達成計画等について説明し、メンバーから出されたアドバイス等をサービスの質の向上のために活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で事業所の現状や課題についても報告しており、施設運営等について日頃から相談し、協力を得ている。	市の担当課職員が運営推進会議に参加しており、介護関連等の情報提供をいただいている他、ホームの実情を把握・理解いただいている。また、必要に応じて電話や出向いて相談し、助言・指導をいただきながら、課題解決に向けて連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアのため、身体拘束となる事項を掲げ、日頃から会議やミーティングで職員の共有認識を図っている。外部研修への参加と勉強会を行うことで、知識と理解を深めている。夜間以外は玄関に施錠していない。	身体拘束の具体例や緊急やむを得ない場合以外は身体拘束を行わないというホームの姿勢を契約書に明記し、日々のケアに努めている。また、マニュアルを整備している他、勉強会を開催し、職員が身体拘束の内容や弊害の理解を深められるよう、教育を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のため、具体的な内容をマニュアル化し、勉強会を行うことで、虐待防止に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習する機会をつくり、理解を深めるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用料金や起こり得るリスク、医療連携体制の説明や緊急時の対応方法等を詳しく説明し、また、利用者・ご家族からの意見や要望についても伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族が要望や意見を出しやすいように、面会簿に記載欄を設け、内容に関しては会議やミーティングで話し合い、改善するよう取り組んでいる。日頃から、ご家族との信頼関係をつくれるように心がけている。	家族の来訪時には日頃の利用者の状況を伝えながら、利用者の表情や言葉の端々に注意を払い、利用者と家族、両者の思いの汲み取りに努めている。また、意見箱の設置の他、重要事項説明書にホーム内外の相談・苦情窓口を明記し、意見等を出しやすい環境づくりを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見や要望を聞くようにし、職員から話し易い雰囲気づくりに配慮している。また、職員会議やリーダー会議で意見を反映できるよう話し合っている。	毎月、職員会議を開催して現状の把握に努め、意見交換の機会を設けている。内容により、リーダー会議への提言や、場合によっては代表者へつなぐ体制を整えており、出された意見等は常に検討し、より良いホームの運営のために反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が東京在住であるため、月に1・2度出社し、利用者や職員とのコミュニケーションを図っている。日頃は施設長をはじめ、職員から電話で状況を確認・把握し、個々に応じた役割を持たせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会は県内外で開催されるもの等、職員のスキルアップのために順次参加させ、報告会を兼ねて勉強会を行っている。また、資格取得に向けた支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県内及び地域内のグループホーム協会に加盟しており、研修に参加して交流を図ることで、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や入所時は同じ職員が対応し、利用者・ご家族から不安や要望を聞き取り、早期に信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までの生活状況等の経緯について、話を聞いている。事業所でも対応できる事についても話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いや状況を確認し、場合によっては他の事業所のサービスにつなげる等、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な支援ではなく、今までの生活の知恵を伝授していただく等、お互いに協力し合って生活できるように配慮している。労いの言葉や感謝の気持ちを伝え、生活に意欲が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを受け止めて支援できるように、日頃から話し合う機会をつくり、お互いに協力し合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ出かけたり、ご家族や知人への電話での交流を支援している。	生活歴の把握により、これまで培われてきた関係性が失われることがないように努めている。電話の取り次ぎや年賀状の代読、行きつけの美容院への送迎、馴染みの商店での買い物、地域の祭り事等への付き添い等、利用者の希望を叶えながら、関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間人間関係を観察し、良好な関係を築けるような食事席の配置を行ったり、トラブルが生じた際は職員が仲介し、関係が悪化しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された方でもお見舞いに行ったり、洗濯物を手伝う等、関わりを継続している。また、退所後も状況により相談を受け、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、一人ひとりの思いや意向を汲み取っている。意思疎通が困難な方はご家族からの情報を参考にして、要望に関しては素早く対応できるように取り組んでいる。	日々の暮らしの中での言動・所作等から、利用者の思いや希望等の汲み取りに努めている。入浴中に本音が出るが多いため、聞き取りに努めている他、時には居室で担当者とゆっくりとした時間を過ごしていただき、思いや意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の自宅訪問や、入所時に利用者やご家族から生活歴の聞き取りを行っている。ご家族の来訪時に今までのエピソードを伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の生活を観察しながら、精神面・身体面の変化をケース記録に記録し、職員間で話し合いながら把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、利用者の思いや要望を聞き、ご家族にも相談しながら介護計画を作成している。カンファレンスにて意見交換を行い、ヒヤリハットを活用して、介護計画に反映させている。	日常的な職員の気づきや家族とのやり取りの内容、医療関係者の意見等を個人ファイルへ記載し、必要時はそれを基に意見交換を行いながら、情報の共有に努めており、利用者本位の介護計画の作成に取り組んでいる。また、利用者が可能な限り自立した生活を営むことができるよう、状況の変化等に応じて、随時、見直しを行い、現状に即した計画となるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、身体状況や日々の生活の様子やエピソードを記録し、職員間で申し送りを行い、いつでも確認できるようにしている。また、ヒヤリハットを全棟で確認して支援内容を共有し、リスクの回避につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院や転居の際に、他施設や医療機関への送迎サービスを行っている。グループホームに入所するまで、系列の有料老人ホームを利用しながら、共用型のデイサービスで馴染みの関係づくりに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮していけるよう、消防署への協力依頼を行ったり、地域包括支援センターや社会福祉協議会からの情報収集等、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、ご家族から受診状況について聞き取りし、要望に応じて、かかりつけ医に受診している。受診結果は報告し、必要に応じてご家族にも同行していただいている。	入居前の医療機関へ継続して受診できるように支援している。ホームでは看護職員を配置し、日常的な健康管理や相談の他、症状に応じた専門医受診の対応等にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日常の健康管理・相談の他、24時間可能な体制を取り、緊急時にも対応して、医療機関と連携しながら、安心して医療が受けられるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はできるだけ毎日見舞いに行き、病状の確認をしながら、ご家族との連絡を密に行い、早期退院に向けて、医療機関と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応方針について定めており、終末期や急変時のご家族の意思確認を、同意書等の書面で説明し、話し合いを行っている。利用者やご家族の意向に沿って対応するために、医師との連携を図っている。また、状態変化時は都度、ご家族の意思確認を行い、対応している。	「利用者の重度化した場合における対応に係る指針・同意書」を整えており、医療関係者と連携を図り、他職種共同体制の下で支援する旨、ホームの方針を明示している。また、変化に応じて、家族とその都度の意見交換・意思確認を行い、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急法を習得し、緊急時の応急手当について勉強会を行い、技術と知識を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練の他、消防署・地域住民参加の火災訓練と夜間想定訓練を年1回ずつ行っている。地震や停電時の取り組みも行い、必要な物品も準備している。夜間想定訓練では、夜勤者1名体制で、避難誘導や連絡体制の手順を確認し、実施している。	日中・夜間を想定した具体的な避難誘導策を作成しており、ホーム独自に毎月の避難訓練を実施している他、消防署立会いの訓練も定期的に行っている。また、運営推進会議等を通じて、地域住民にも訓練への参加・協力を働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を実施し、利用者の尊厳やプライバシーが保護されるように努めている。各ユニットリーダーが日頃の関わりの中で、職員に指導や助言を行っている。	守秘義務や個人情報の取り扱いに関するマニュアルを作成し、定期的に勉強会も開催して、職員は知識の習得に努めている。また、排泄や入浴介助時、その他の支援時について、具体例を用いて意見交換・助言・指導等を行い、利用者の尊厳やプライバシーに配慮したより良いサービス提供に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状況に応じて、日頃から選択できるような場面をつくっている。意思疎通が困難な方へはご家族からの情報で、希望や好みを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望やその日の状況に応じて過ごせるよう、配慮している。下肢筋力低下予防の目標を設定し、本人が意欲的に生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の天候や気分、行事等に応じて服装を選べるように配慮している。行事の際はお化粧をしていただき、生活に潤いが持てるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は利用者の希望を取り入れて、職員が決めている。調理や準備、後片付けも利用者と職員が行い、食事と同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるようにしている。	食事には旬の食材を取り入れ、慣れ親しんだ伝統料理を盛り込んでいる他、嗜好や口腔・嚥下状態に合わせて対応し、医療面にも配慮したメニューを提供している。また、利用者は調理の準備や盛り付け、後片付け等の作業を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当者を中心に、利用者の好みや季節の旬の食材を取り入れ、栄養バランスに配慮している。食事摂取量や水分摂取量の把握に努め、摂取量が少ない方は、好物や栄養補助飲料等で補っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄の声かけを行い、状況に応じて介助している。夜間は義歯の消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各ユニットの委員を中心に、排泄パターンを把握すると共に、一人ひとりのサインから排泄の支援を行っている。排泄の介助はプライバシーや羞恥心に配慮し、支援している。	排泄の記録により、パターンの把握に努めており、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、排泄委員会では、利用者の状態に応じた排泄用品の使用検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各ユニットの委員が予防や対策について話し合い、自然排便につながるよう取り組みを行っている。毎朝、ヨーグルト入りの牛乳を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者の希望に応じて入浴していただいている。系列の事業所にある温泉棟へ出かけ、温泉を楽しんでいただいている。好みの温度や入浴方法を把握しており、各ユニットの委員を中心に、現状と支援方法について検討し、支援している。	入浴委員会を設けて意向の把握に努め、利用者の希望に沿った支援に努めている。ホームでは毎日入浴できる体制を整えている他、系列の事業所には源泉かけ流しの大浴場を備えており、声かけして希望を募り、出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を増やし、生活のリズムをつくりながら、日光浴も取り入れている。その方の状況に応じて午睡していただき、夜間、良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方が変わった時は、用法や副作用について情報を共有し、観察している。状態変化時は看護師と連携して、医療機関へ報告し、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の家事や野菜の収穫・下拵え等、利用者の今までの経験や知恵が発揮できるように支援している。天気の良い日は利用者と一緒に相談しながら出かける等、日々の生活に楽しみをつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの気分や希望に応じて、日常的に散歩や買い物、ドライブ等へ出かけている。歩行が困難な方でも車椅子で外出し、また、その日の身体状況や精神状態に配慮した支援を行っている。	天気の良い日はできるだけ外気に触れ、季節の移ろいを肌で感じることができるように取り組んでいる。年間を通じて、観桜会や紅葉観賞、くだもの狩り、祭り事への参加等を行い、利用者の楽しみや気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方はお金を所持し、自由に買い物ができるようにしている。管理が難しくなった方は、一緒に買い物に行ったり、職員が買い物を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃から家族や知人に電話がかけられるようにしており、自分でかけられない方へは、電話を取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下に絵を飾ったり、掲示物も季節を感じられるものになっている。また、テレビの音や室内の明るさにも配慮している。	各ユニット毎に工夫して、独自の共有空間づくりを行っており、季節感のある手作りの作品等を飾り、利用者が季節を感じることができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファを置いて、一人になりたい時や、仲の良い利用者同士で寛げる場所をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や遺影を持ち込んだり、一人ひとりに合わせて、馴染みの物や使い慣れた物を持って来ていただいている。入所後も利用者や家族と相談し、好みの居室づくりを支援している。	馴れ親しんだ物品の持ち込みを働きかけており、入居前と後で、できる限り環境に変化が少ないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置し、素足でも滑らないように絨毯にして、転倒予防に努めている。玄関に椅子を設置し、安全に靴が履けるようにしている。		